

<b>学校教育目標</b>		<b>重点目標(中・長期的目標)</b>
生きる力の育成と地域を担う人間づくり ①共に生きる力を養う(自己理解・他者理解を含め、他者と共存していく力を高める) ②夢をかなえる力を鍛える(問題解決能力とともに、社会性及び人格を向上させる) ③地域と関わる力を育む(地域への関心を高め、理解し、積極的に関わる力を育成する)		
		①地域からの信頼を高め、地域を担う人材を育成する ②人間としての在り方、生き方を深める教育を展開する
<b>今年度の重点目標</b>		
I いじめや体罰がなく、生徒や職員にとって安全・安心な学校をつくる II 社会性を身につけるために、基本的な生活習慣を定着させながら、自尊感情を育成する。 III 地域と連携、協議することを通じて自己理解を深め、自ら望むキャリアの実現を支援する。 IV 授業改革の取組を実施し、学校として有効な指導体制の共有、構築をはかる。		
<b>総合評価</b>	<b>成果と課題</b>	<b>改善策と向上策</b>
生徒指導上の課題はあるが、生徒の自律を促しながら、予防する指導を粘り強く行い、多くの生徒は落ち着いた環境の中で学校生活を送ることができている。また、自尊感情の育成、キャリア形成につながる体験学習を計画的に実施することができた。授業改善の取組では、授業規律の確立・定着に併せて、生徒の探究的な学びにつながる授業内容や指導方法について研修を行った。ホームページの定期更新、石楠花通信の発行等、教育活動の情報発信、広報も工夫して取り組んだ。	教育活動や生徒の活動状況を積極的に発信し、地域や中学校に一定の理解は得られているが、地域へ浸透させていくことが課題である。授業改善の取組では、全職員が生徒の探究的な学びにつなげる必要性は理解できているが、日常の授業で継続的に実践するには情報共有や研究が引き続き必要である。キャリア教育の一環となっている地域での体験学習等を通して、人間力を育成し進路に対する意識をさらに高めることが課題である。	生徒の探究的な学びにつながる、授業のユニバーサルデザイン化に向けた研修・研究を引き続き全職員で行う。また、生徒の問題解決能力や社会性を向上させる取組、キャリア教育の一層の充実に向けて、地域での体験学習の改善を地域の方々とも協力して検討していきたい。

1 教育活動について

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策と向上策	学校評議員評価
教育課程	教育課程の運営	・教育課程を実態に即して運営することができたか。	・新教育課程の変更等も含め検討することができた。	・新教育課程に関しては、現状で考え得る案を作成したが、入学生数や生徒の希望、そのときの状況に合わせるため今後も検討が必要である。 ・探究などの細部を係と連携して考えていくことが必要である。	A:80% B:20%
学習指導	学習環境の確立と きめ細かな学習指導の実践	・授業向上週間を設定するなどして、基本的な学習習慣と学習環境の確立に向けて努力できたか。 ・授業及び学習環境のユニバーサルデザイン化に取り組むことができたか。 ・生徒の探究的な学びにつながる教員の授業力の向上を目的として、授業公開を実施できたか。	・9月第1週を授業向上週間とし、教員同士の授業公開を行い振り返りをする中で、全職員が基本的な学習習慣や学習環境の確立にむけ工夫することができた。 ・ICT機器の活用や教材の工夫等、本校職員が日々の授業のなかで創意工夫していることに、ユニバーサルデザインの取り組みが多く含まれていることを共有できた。 ・春秋に加え、12月にも公開授業を行った。事前申込要としたことでスムーズな対応ができた。	・特にICT機器の活用は日々の授業だけでなくモット授業やオンラインコンテンツの充実などさまざまな学習シーンにおいて必要とされている。そういったニーズに応えられるよう校内研修等の充実が今後とも必要である。 ・現在の取り組みを学校全体・教科全体としての組織的な取り組みへ発展していきたい。 ・教員相互の研鑽は、特別な期間を設けなくても可能であるので、日々の学習活動の中で実施できれば良い。地域等に対しては、今年度の様に行事等を活用して行くと共に、中学生向けの公開日を検討していきたい。	A:80% B:20%
特別活動	生徒会活動の活性化	・生徒会役員に自治意識を涵養し、生徒自身がリーダーシップをとって全校を牽引していくよう指導することができたか。 ・生徒一人一人が、生徒会の構成員である自覚を持ち、委員会活動や行事などに積極的に参加する姿勢を身につけることができるよう指導できたか。	・生徒自ら服装改善の呼びかけを行っている。直接注意をしたり、放送で全校に呼びかけたりと、自分たちで方法を工夫しながら活動を進めていくことができるようになった。 ・SNSの活用やHRMの自主的な運営、校外での活動など、生徒が能動的に生徒会活動を行うようになってきた。 ・本年度も保健福祉委員会によるやすらぎ喫茶や図書委員会によるお寺マルシェなどの活動を実施することができた。今後も学校外の活動を増やし、地域への貢献活動に力を入れていきたい。	・定例となっている毎週木曜日の生徒会役員会において、定期的にビジョンの共有をおこなう。また、各委員会の活動報告など、互いの活動や考えなどを知る機会を設けることで、これまでにないアイデアが生まれる環境および関係性を作り、より活発で主体的な活動をおこなえる生徒会活動にする。 ・校内だけでなく校外での積極的なPR活動が必要である。文化祭等の行事で地域の方々につながる機会を設け、茅野高校を知ってもらい、校外での活動機会を創出していきたいとよい。	A:60% B:40%

生徒指導	社会性、協調性及び正しい判断力の育成と主体的な行動の促進	・社会のルール、マナー及び規律を遵守させることができたか。	・全職員で校門等での朝の挨拶運動、巡回を行った。生徒会の連携もしながら実施できた。 ・授業におけるルール等の徹底を継続して行った。 ・全体として落ち着いて生活している。	・基本的生活習慣や他者との関わり合いにおける配慮等、各ホームルームや学年集会等で生徒に話をし、粘り強く伝えていく努力をする。 ・各授業において、授業準備や挨拶に始まる基本的な学習習慣を身につけさせるよう、教科担当者が指導を継続していく。 ・高校生としてのありようについて、粘り強く示していく。	A:60% B:40%
	生徒・保護者・地域社会との信頼関係の構築	・家庭や地域との連携を図った指導をすることができたか。	・家庭通知、学校評議員会、諸会議等で本校の生徒指導の基本的な考え方、近況や課題を伝え、理解と協力を求めた。事例発生時、各担任から迅速な家庭連絡が行われ、指導へ円滑に移すことができた。	・服装・ゴミのポイ捨て・自転車の乗車マナーなどについて、誠実に速やかに対応することに努めた。今後も生徒会活動などを通じて生徒に呼びかけを行っていく。 ・家庭と連絡を密にし、家庭の理解を深めていただけるように努力する。	A:60% B:40%
	個のニーズに応じた支援	・関係機関等と連携し、個のニーズに応じた支援ができたか。  ・本校における特別支援教育の充実に向けて、校内支援体制の構築や職員研修ができたか。	・支援の必要な生徒に対するSCによる面談は迅速な対応ができ、適切に実施することができた。必要に応じて行政機関やSSW、医療との情報交換を行った。諏訪養護学校巡回相談の助言を基に、個別生徒の実態把握と適切な支援の実施に努めた。 ・毎週の学年会・係会によるチーム支援の体制は整ってきた。校内関係職員間、更には外部関係機関との連携も強くなってきている。 ・本校生徒の実態把握に関する職員研修を実施した。	・中学校からの申し送りなど新入生に関する情報を生徒のニーズに応じた支援に活用できるようにする。個人情報の取り扱いと適切な管理の方法を検討し、必要ときに情報共有できるようにする。  ・校内の支援体制とSC、SSW、関係機関と連携した体制は整ってきている。チームとしての支援を意識し、本校生徒の実態と職員のニーズに合った職員研修を計画したい。	A:80% B:20%
進路指導	生徒の多様な進路希望への対応	・生徒面談や保護者懇談会の際に進路アンケートを活用して生徒個々の進路希望を把握することができたか。	・生徒1人1人が多岐の進路選択から自分に合った進路を選択できるよう進路就職を織り交ぜたガイダンスや見学を計画し努めた。小論文・面接指導は、多くの職員が関わり生徒の特性を引き出しながら対応できた。	・今年度は進学・就職の希望者が半々となり、状況に応じての個別対応となった。全体的に基礎学力やコミュニケーション力の低下は否めないため、就職・進学において苦戦したケースも見られた。生徒の進路意識の向上と、基礎学力を補いながら進路実現に結びつこう引き続き、本人も教員も努力していかなければならない。	A:60% B:40%
		・計画的な進路ガイダンス、小論文(作文)指導、面接指導、補習を実施できたか。			
	キャリア教育の推進	・就職に役立つ情報を提供し、事業所見学を奨励することができたか。	・デュアル実習を通して、学校やアルバイトでは体験できない職種を体験し、校外での進路学習は充実できている。企業ガイダンスや上級学校見学など各学年において工夫し、実施することができた。	・可能な限り企業との交流を確保することができた。 ・学校からの情報を生徒が理解できるように力をつける。また、保護者にも子供との会話を促し、生徒の進路希望や進路活動の様子を知ってもらう必要がある。	A:60% B:40%
		・進学先に関する情報を提供し、効果的に学校説明会・オープンキャンパス等に参加させることができたか。	・学校説明会、オープンキャンパスへは参加できる時に積極的に参加させるよう声をかけた。進路揭示、保護者懇談会など、保護者に対しても情報を発信している。	・学校説明会や、校内進路ガイダンスに参加いただいた学校との情報提供を、最新の情報として生徒に発信、更新していくことが大切である。 ・2学年の頃から、奨学金や特待生、指定校の説明を行い、計画的に進学に向けての準備が出来るようサポートすることが大切だと感じている。	A:100%
	・体験学習等を計画的かつ効果的に実施できたか。	・体験学習をはじめ、施設体験、デュアル実習、学校・職場見学、様々な進路に触れる機会から、最終的に本人の進路実現に寄与できていると感じる。	・茅野高フォーラムで、各学年より、総合学習やキャリア教育を通して、何を学び、いかに次の学年に学んで欲しいか伝える取り組みをしていきたい。また、コミュニケーション能力、会話能力、学力の低下については、大きな課題として、ワークショップや面談を多く取り入れるなど機会を増やしながら指導する必要がある。	A:60% B:40%	

## 2 学校運営について

地域との連携	地域への広報活動	・学校案内や石楠花通信等での情報発信や、説明会が実施できたか。 ・ホームページの定期的な更新ができたか。	・コース制等の説明は、11月の学校説明会で行い、12月には各中学校を訪問しデュアルシステムを中心に説明を行った。「石楠花通信」は、生徒の活躍や学校活動がより伝わりやすいよう、記事の工夫ができた。 ・ホームページをよりこまめに更新できた。	・生徒会や部活動などで地域へ出て行く活動を増やし、その取り組みを情報発信していくことが必要であろう。中学生への広報活動も、その延長にある。 ・ホームページを見やすいような構成にするよう工夫していきたい。	A:80% B:20%
	地域の人材、施設の活用	・総合的な探究の時間や福祉保育などの特色ある授業への協力要請・外部講師の依頼、また、部活動等への指導要請ができたか。	・就業体験、校外施設体験、福祉体験等を行った。地元で活躍されている様々な職業の方とつながりいただくことができた。	・地域の方の御協力を仰ぎ、さらに連携を進めていきたい。 ・いずれの取り組みも、事前学習が大きなポイントになる。地域へ出て行って体験するなどの場合によって必要な知識やスキルがある。目標と心構えを丁寧に準備することで得られる成果も変わってくるので、より計画的な取り組みが求められる。	A:60% B:40%
校内研修	職員研修の実施	・校内初任研の実施ができたか。 ・研修や学校視察等を実施できたか。	・12月に初任者研修研究授業を行い多くの教員が参加した。 ・特別支援教育研修、生徒育成方針等の3つの方針及び探究的な学びに関する研修も積極的に行われた。また富士見高校との交流授業見学会を昨年度に引き続き実施した。	・生徒の探究的な学びを目指す授業研究と実践は引き続き実施していく必要がある。また、授業へのICT活用についても、初任者を中心としながら全職員が積極的に取り組めるよう、研修等を計画する必要があると考える。	A:60% B:40%